

天竜の杉檜と生きる

〒431-3306
 ■静岡県浜松市天竜区船明880番地
 ■TEL:053-926-1232
 ■FAX:053-926-2879



早稲田大学×フジイチ

新しい
天竜美林
始まる



研究会と共に、天竜林業の新しい未来が始まる！

喜びの会見シーン。笑顔で握手している二人は、フジイチ社長の内山弘と早稲田大学工学博士榎橋（くしはし）助教授です。この度、森林整備機械化技術開発研究会で準備してきた案件に静岡県の予算が付き、林業機械の開発に着手することになったのです。

日本の林業は、山の木を伐って製材所に運んでくる費用が欧米に比べて高い為、キヤタピラ付きの大型機械が導入されコスト削減が計られてきました。しかし、急峻な地形の多い静岡県では目に見えた成果が上がっていません。こうした事から平成18年3月に行政の呼びかけにより、様々な分野の技術を取り入れ機械化を進めるため、この研究会がスタートしました。

静岡県行政、林業技術センター、商工労働部、静岡県森連、産業機械メーカー、早稲田大学、森林組合、榎フジイチ等が集まって現場を見て討議し、また、行政、農林省、名古屋大学の先生など多くの方からの意見を取り入れてきました。早稲田大学博士の榎橋先生には、天竜に泊って現場の作業体験をして頂き、実行力の高いご提案をいただきました。

研究会の議論の中では、レーザー光線での伐採、ガンダムのようなロボットの開発など夢は広がりましたが何せ貧乏な業界です。現実に戻り、今静岡県内で普及している自走式搬器（イワフジラジキャリ）の自動化に取り組み事を決めました。そして、この取り組みが2月の静岡県議会でも取り上げられ、予算化される事となり、冒頭の会見となったわけです。今年1年、天竜林業を進化させるこの機械の動向をご期待ください。

(石野 秀二)

差別化したい工務店・建築事務所様向け 【ビルダー】 無料セミナー

平成19年5月10日(木)
10:00~12:00 (受付9:30~)

天竜杉・天竜檜 メリット教えます

■本物の天竜材・天竜林業について
 ■新しい住まい創りの山側からの提案
 ■天竜杉の住宅 成長ヒストリー！

第1講座
 フジイチ 内山 忠彦
 ■山を知り、木を知る天竜フジイチのホープが、天竜林業の実態をお教えいたします。

第2講座
 フジイチ 石野 秀一
 ■山の改革こそここにあり。自力・自発・自前のフジイチのマル秘の仕組み、お教えします。

第3講座
 ゲスト講師：株式会社船井総合研究所 古川 大輔
 ■経営コンサルタントの視点最新の情勢から読めることと最新事例を紹介しながらお伝えします。

第4講座
 フジイチ 代表取締役社長 内山 弘
 ■天竜の山と木と皆様につながる事が、最高の幸せです。これぞメリット。お伝えします。

相談会
 12:00~13:00
 ■もっと知りたい方へ
 ■使ってみたい方へ

日時
 5月10日(木)
 10:00~(受付9:30~)

料金無料
 (テキスト代500円税込)

場所
 天竜林業会館
 〒431-3306
 静岡県浜松市船明1951-1

住宅事例もご紹介！
 ▶参加ご希望の方はフジイチへお電話を！

イベント案内

- 4月1日から
天竜区になりました
「静岡県浜松市天竜区 船明880番地」
お間違えのないように。
- 4月21日
フジイチ「植林」体験ツアー！
子供や孫の世代へ夢を植えていきませんか。
- 4月
春の町庁舎落成
フジイチからも多くの材を納めております。
詳しくは次号で！
- 5月10日
天竜杉・天竜檜セミナー開催
天竜杉・天竜檜のメリット教えます！差別化
したい工務店・設計士・建築事務所様はご連絡を！
- 6月16日(土)13:00~16:00
17日(日)9:00~15:00
森のアウトレット
1年に2回の限定、お得な「天竜材」の販売会。
ご来場のみなさんは木が大好きな方が多く、
私達も教えて頂くことたくさんあります。

フジイチニュース

- 加藤穂くんと村田洗輔くんが入社しました。
- 佐伯康央くんが浜名高校校定時に入学しました。仕事と学問の両立がんばれ！
- 平成18年度防災コンクールでフジイチは「最優秀工場」になりました！

天竜人語



専務 加藤 穂
 社長 村田 洗輔

暑さ寒さも彼岸まで。3月21日は春分の日ですが、杉檜の植林はまだ空気が冷たいところが一番いい。あまり暖かかったりすると苗が蒸れて枯れてしまう。また5月にずれ込んで雨量が少なかつたりしても枯れてしまう。

3月1日に日本でたった一つの林業高校である静岡県立天竜林業高校の卒業式に来賓として出席した。今年144名の卒業生。シーンと静まり返った講堂内は終始物音せず、厳粛な雰囲気の中で卒業式に感銘した。全員進路も決まり、弊社にも優秀な名前が入社してくれた。

この高校の校門をくぐるとビックリする。まず校長先生の物腰の良さ、教職員・事務職員の接待の良さ、電話対応の良さは営利企業のそれを上回る。また生徒に出会うととびつきり元気で爽やかな声の「おはようございます！」「こんにちは！」が耳に飛び込んでくる。訪れるたびに私の気分は上々になるのである。

(代表取締役社長 内山弘)

設立：1946年
 社員数：60名
 平均年齢：39.6歳
 業務：木材業製材業(立木の直接仕入)
 資本金：3000万円
 住所：浜松市天竜区船明880
 TEL：053-926-1232
 FAX：053-926-2879
 E-Mail：info@fujiiichi.co.jp

詳しくはお電話で！
 053-926-1232

「見学・体験会」
 ご案内しています

フジイチの大切なお客様に。
 山と木と家を知るツアー

寄稿山林見学会

“間伐”を知る 天竜美林の実態とは…。

「欧米か」「南米か」。ちよつと古い最近流行ったお笑いのフレーズ。もっぱら天竜林業では、「列状か」「定性か」といったところか。これは間伐の方法のこと。時代は、合理性の名のもと森林を列状に伐採する「列状」を薦めている。しかし、天竜地域の関係者は、あくまで、目で見て選んで伐採する「定性」にこだわる。なぜなんだろう。頭では分かっても、ホントのところ、ずつと分らなかった。単なる「列状間伐アレギー」じゃないのか。そうも思っていた。しかし、今回、見学させていただき、ボケていたところがクリアになった。「現場百回」「百聞は一見にしかず。よく言ったものだ。」



▲美しい芸術的な山



▲見上げる我ら

いろいろあります“間伐”も

定性間伐	列状間伐
・優性間伐	・群状間伐
・劣勢間伐	

定性間伐とは一木一本目でみて人の手で伐採すること。また良い木を切るのは優性間伐。悪い木を切るのは劣勢間伐（果物でいう間引き）。また列状に、群状に、機械的に選んで伐採することを列状間伐、群状間伐という。

（フジイチ）

浜松市農林水産部森林課（小林和重）



▲列状間伐の実態

今後、日光が当たったとしても樹冠が小さく、光合成も期待できない光景だった。次は、皆伐未造林（一斉に伐採した後、植林していない山）。地肌がむき出しになった、数ヘクタールの山だった。3月中旬にしては、珍しく寒かったこの日。まわりの空気を、さらに凍らせてしまうような光景だった。しかし、これも現実なのである。見なければ分からない。最後は優良事例である。「言うからには、しっかりとやる」なのか「言っちゃったから、しっかりとやるを得なかった」のかは分からないが、浜松市森林ビジョンの委員であり率直な発言をされた石野さん所有の山林。本当にきれいだった。「フォトジェニック（写真映える）」という言葉は、美しい女性を

撮る時に使うものだと思っていた。しかし、今回は、山林自体がフォトジェニック。本当に驚いた。間伐され、枝打ちされた木々が、凛と立ち並ぶ。芸術性さえ感じた。きれいな山林からは、いい木が採れる。機能向上にも役立つ。「勝ち組」の木を、丹精込めて残すこと。それらすべてが、「循環」につながるのだと思った。間伐方法はケース・バイ・ケース。山林の状態も違うし、所有者の考えも違う。今回の見学会で「柔軟性」という、都合のよい言葉にたどり着いた。（県）森の力再生事業も、「列状間伐」一辺倒ではないと聞く。列状・群状・定性をミックスして提案してほしいと、県庁の担当者の説明を聞いた。天竜地域にとって、よりよい方向性は何だろう。これからも柔軟性をもって、皆さんの意見聞きながら考えていきたいと思う。

山と杜と木を愛する* フジイチ伐採&工場見学ツアー

【平成19年2月17日（土）】



天竜の森を歩く



さて、何歳？



感動した〜！

「まず、受け口をいれて…」などと説明を交え、樹齢80年の木が倒れる様に皆さん圧倒されていきました。伐採現場に行つて毎回思うのですが、木が倒れるときの音、風圧、地響きは現場に行つたものだけが体験できる特別な経験です。映像や音声だけでは決して伝えることが出来ないものだと思います。古い木ほど神秘的な神



見つめる先に80歳の天竜杉



瞬間！！

と、その古道の歴史の古さを感じることが出来ます。さて、今回の伐採担当は、伐木競技会で優勝の実績を誇る宮沢松夫氏。「気は優しく力持ち。これぞ山男！」という言葉が似合う「きこり」。まず、盛塩お神酒をお供えして神事を執り行い、皆さん山の神様に安全を祈願し、伐採へと移りました。伐る木は、最少参加者の女子大生に決めてもらいました。戸惑いながらも、近くの一番太い杉の木を選びまして、さて伐採。伐採現場に行つて毎回思うのですが、木が倒れるときの音、風圧、地響きは現場に行つたものだけが体験できる特別な経験です。映像や音声だけでは決して伝えることが出来ないものだと思います。古い木ほど神秘的な神



町へ出るぞ〜

フジイチ社員 大紹介 新入社員に続け！ 感謝の気持ち



私は今年成人を迎えました。まだ成人という実感がありませんが、一つ一つの行動に責任を持って生活していきたいと思えます。

仕事の面でも先輩がいつぱい入ってきたので、お手本になれるようにしたいと思えます。今年の4月で2年になるので、もう少し周りを見て仕事が出来ようになりたいし、全部の機械を使いこなせるようになりたいです。これからも、一生懸命仕事や遊びに色々♥がんばります。めざせ寿退社！



太田 美由起 (20) Miyuki Ota 天竜区出身



杉森 かほる (19) Kahoru Sugimori 天竜区出身

私は、フジイチに入るまでは沼津で一人暮らしをしていました。十二月に地元に戻ってきて、仕事が見つかるまで母の仕事（牛乳配達）を手伝っていました。フジイチにも配達していたので、事務の人たちとは顔見知りでした。たまにママと専務が知り合いで、製品を結束する人がいないというので入社しました。私は普通高校を卒業しているので、木材のことはまったく分かりません。でも、会社の方々がとても優しい人ばかりで、一から教えてもらいました。私がミスしても、優しく声を掛けてくれます。今はまだ全然わからないことばかりだけど、これからだんだんと覚えて、頼りにされるような存在になりたいです。フジイチに入社できたのは、専務と母のおかげなので、感謝の気持ちを忘れないで頑張っていきたいです。

業界動向「先を読む」

「先を読む」といえば、将棋のプロの対局。決められた時間内に相手の差し手を数百通りも予測し、自らの戦略・戦術を駆使し必死の形相で考え読む。1手に120分も費やすかと思えば、終盤では時間に追われ10秒以内で何手も指す事もある。『勝つか負けるか』勝負の世界。そして我々木材の世界。近年、大工の手キザミが要らなくなる「プレカット」、乾燥釜でスピード対応する「人工乾燥」が世に出てからは物流の著しい対応にとまどう日々が多かった。近年、健康及び環境面での国産無垢材の関心の深さ、注目の度合い、国・自治体及び企業の実際の行動は単なるブームでは絶対ないはずだ。我々は正々堂々、本物をしっかりと扱い、そのよさを最大限に引き出す山と木と家を知るプロ集団でありたい。



鈴木 義明

今月のぴくちや



いつか世に出たい！これぞ、かけつづきの人生。かんぼつてます！天竜の山で見つけた小さな根性。



（内山 勝）